

高
2019

国

語

始める前に左の注意事項を読みなさい。

- 始めの合図があるまで開いてはいけません。
- 問題は全部で17ページあります。
- 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 問題冊子、解答用紙のいずれにも受験番号、氏名を書きなさい。
- 質問のあるときは静かに手をあげ先生の指示を待ちなさい。
- 終わりの合図があったら、ただちに筆記用具を置きなさい。
- 問題冊子を持ち帰ってはいけません。

| | |
|------|---|
| 受験番号 | |
| | |
| 氏 | 名 |
| ふりがな | |
| | |

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わかるためにはそれなりの基礎的な知識が必要です。

たとえば、「いらっしやいませ」という文字列を読むためには、い・ら・つ・し・や・い・ま・せ、という八個の平仮名を知っていなければなりません。これが「イラツシヤイマセ」であれば、イ・ラ・ツ・シ・ヤ・イ・マ・セという八個の片仮名を知っていなければなりません。「筑摩書房」という文字列を読むためには、筑・摩・書・房の四個の漢字を知っていなければなりません。日本語を読むためには平仮名を少なくとも七一文字、片仮名も七一文字は知っていなければなりません。

漢字は少なくとも常用漢字一九四五字は知っていなければなりません。もし韓国のハングル文字で日本語の「いらっしやいませ」が表記してあっても、ハングル文字を知らない人にはマルペケマルペケという模様の羅列のように見えてしまいます。^①意味は立ち上がりません。日本の昔の書だつてそうです。意味ある文字列には見えません。きれいな線が並んでいるだけです。

「いらっしやいませ」が読めても十分ではありません。「いらっしやいませ」の意味がわからなければ日本語を読んだことにはなりません。筑摩書房と読めても、意味がわからなければ、出版社なのか喫茶店なのか、ゲームの名前なのか、中国の地名なのかわからないでしょう。

A モノがわかるためには、大量の意味記憶が必要です。日本語をやりとりするには何千語もの単語の知識が必要です。日本語の読み書きにはさらに文字という大量の意味記憶が必要です。これらの大量の記憶を蓄えているからこそ、「いらっしやいませ」が読め、「筑摩書房」が読めるのです。

当たり前のことをもつともらしく書くな、と思われるかもしれませんが、決して当たり前のことではありません

ん。これだけの知識を集積するのは大変なことなのです。生まれてから、小学校卒業くらいまでかからないと、雑誌や新聞を普通に読むことは出来ません。^②長い長い時間が必要なのです。

複数の類似の動物が犬というものであることを知ります。別の類似の動物が猫というものであることを知りません。さらに別の類似の動物が鼠であることを知ります。そのうち、牛を知り、馬を知ります。お寺の庭に群れている動物が鳩であり、ゴミ集積所に群れているのが鳥であると知ります。こうした知識は単にその動物集団を区別しているではありません。自分の心の中を整理しているのです。自分の心の中に動物の知識の網の目を作っているのです。

犬、猫、牛、馬、鳥、鳩だけしか動物を知らない、と考えてみてください。その場合はこの六種の動物がその人の知識の網の目になります。この人がもしキツネを見かけたとしたら、犬みたいな動物と判断するでしょう。あるいは犬そのものと判断するでしょう。イタチを見かけたら猫みたいな動物と考えるでしょう。ラクダを見たら変わったタイプの馬と考えるでしょう。鷲を見ても鳥と思うでしょう。とりあえずは^③自分の頭の中にある辞書を使って判断するしかありません。そのうち、キツネ、イタチ、ラクダ、ワシと、知識の網の目が細かくなります。網の目が細かくなると判断も細かくなります。すべて「犬」では満足出来ず、犬は犬でもスピッツか、チンカ、コッカースパニエルか、ということになるでしょう。鳥もハシブトかハシボソか、が気になるようになります。

このように知識は意味の網の目を作ります。網の目は逆に知識を支えます。ひとつひとつだと不安定ですが、網の目になると安定度を増します。ひとつの知識だと不安定ですが、一〇〇の関連知識に支えられると、その知識は安定度を増すのです。

網の目を作るにはまず記憶が重要です。しっかりした記憶を作らないと、しっかりした網の目は出来ません。

言葉の記憶の網の目がしつかりしているから言葉がわかるのです。^④日本ではいくら英語を勉強しても上達しないのに、アメリカやイギリスで一年も住めば結構上手になります。一日中英語の網の目で暮らしているため、いやでも自分の中に英語の網の目が立ち上がるのです。一年で獲得する知識の量が違うのです。

数学の始めは九九です。これを覚えてしまわないことには計算は始まりません。足し算も掛け算も繰り返して手続き化しないと役に立ちません。いちいち \times の原理から考えているわけにはゆきません。みんな学校で^⑤その試練を経ているから、スーパーのレジでおつりが合っているか間違っているかのチェックも出来ようというものです。

人それぞれ専門があります。服飾関係の人なら衣服のことに詳しい知識を持っています。建築関係の人は建築については人の知らないことをいっぱい知っています。農家なら季節の変化、野菜の性質、育ち方などにすごい知識を持っています。すべて、その仕事に従事している間に営々と知識の網の目を作っているのです。

学校生活には暗記という嫌な言葉があります。丸暗記などというとますます嫌なイメージです。嫌だけど覚えなければならぬ。無駄だけど覚えなければならぬ、というのが暗記のイメージです。

B 暗記という言葉が嫌なイメージだからといって記憶そのものを排斥することは間違いです。すべては記憶の上に成り立っているのです。そもそも毎日の行動そのものが記憶の上に組み立てられています。しっかりと記憶のおかげで、考えなくても我が家の中が歩きまわれ、わが町を歩きまわれるのです。記憶のない見知らぬ町へ放り出されたら、いちいち地図に相談しなければなりません。交番の厄介にならなければなりません。

心理過程はすべて記憶の重なりです。知らず知らずに覚え込んだか、意識して覚え込んだかの違いはあっても、覚え込んだものが積みあがった結果が現在の心です。覚えることに嫌悪感を持たないようにしてください。記憶を嫌がっている自分自身が記憶の上に成り立っているのです。

知識の網の目が出来ると、何がわかっていて、何がわかっていないのかがはつきりするようになります。網の目が変なものをひっかけてくれるのです。

C 次のような文が目に入るとします。

「天網恢々疎かいかいにして漏らさず」

わかったようでわからない難しい表現です。

まず、「天網」でひっかかります。テンノアミ？ テンモウ？ なんじゃこりゃ、とあります。つぎの「恢々」になると、読むことさえ出来ないかもしれません。なんじゃ、こりゃ。こりゃ漢字か？ どう読むのかな？ という反応を起こすでしょう。

天網は恢々であるが、疎であって漏らさない。という筋立てはわかります。日本語の知識の網の目があるからです。天網は天の網です。これもはつきりとはわかりませんが、天も網もわかりますから、天網は天に張りめぐらされている網、あるいは神様みたいな、天を支配している人が張りめぐらした網、と想像出来ます。

天という言葉が広がっている意味、網という言葉が広がっている意味がおたがいに重なって、なんとなくイメージを浮かべることが出来ます。恢々は辞書を引くしかありません。あるいは人に尋ねるしかありません。広く大いなるさま。ゆつたりとしたさま。と辞書にあります。疎も辞書を引きましょう。粗い事。まばら。とあります。

これだけ意味が揃えば、だいたいわかります。

天が張りめぐらしている網がある。この網は広々としていて目も粗いものだが、決して獲物を逃がすことはい。⑥、という意味です。老子の言葉です。

この文の意味がわかるのは心に張りめぐらした知識の網のおかげです。天網に対抗して言えば、心網のおかげです。この心網が、この文を日本語としてひっかけてくれるのです。ついでその構造も網に入れてくれます。つ

まり、天網と恢々と疎の間で切れることがわかります。天網、恢々、疎にして、漏らさず、という構造です。この構造がわかれば、天網の意味、恢々の意味、疎の意味、というふうに個々の単語の意味を調べることが出来るのです。

⑦ 知識の網のおかげで、わかるどころとわからないところが区別出来るのです。まったく何も知識がなければそもそも網の目が出来ていけませんから、網にひっかけること自体が出来ません。すべてのものは網を遠くはずれたところをどンドン流れていってしまいます。とても天網恢々疎にして漏らさず、というわけにはゆきません。

「大きさがEのエネルギーは $E = mc^2$ という質量を持つ」という文はどうでしょうか。こちらは⑧ 皆目意味が取れません。同じように日本文ですが、どうも様子が違います。

天網恢々疎は辞書を引けばなんとかなりりましたが、 $E = mc^2$ は辞書の引きようがありません。英語の辞書を引いても、日本語の辞書を引いてもこんな式は載っていません。網の目が違うのです。

こちらは網にひっかかりようもなく、ストンと抜けてゆきます。

⑨ わかる・わからないの世界が違うのです。

$E = mc^2$ (つまり、 $m = \frac{E}{c^2}$) を理解するためにはEがエネルギーを表し、mが質量を表し、cが光速を表す、ということを知らなければなりません。これには科学についての知識の網の目が必要です。エネルギーとはどういう概念なのか、光速とはどういう概念なのか、質量とはどういう概念なのかを知っていなければなりません。エネルギーとはどういう概念かがわかって、光速の二乗とはいったい何なのか。光速の二乗に質量をかけるとはいったいどういうことなのか。単位は何なのか、掛け合わせるということは数字だということだろうけど、いったい何をしようとしているのか、さっぱりわかりません。関連する概念の網の目がなければ、こんな公式ひとつをもらってもなんのことだかわからないのです。⑩ 見当もつかないのです。ですが、科学の好きな人なら苦もな

くわかるのでしよう。それだけの知識の網の目を蓄積しているからです。

誰も初めから知っているわけではありません。誰もが長い時間をかけて知識の網の目を作り上げているのです。あいつは「It is」がわかっているみたいだが、俺はわからない、ということもあるでしょう。だからといって、悲観することはまったくありません。その人の頭には^⑪わかるための素材が溜めこまれているのです。その気になれば誰にでも溜められます。日本人なら誰でも日本語が理解出来、日本語が話せます。これが理解の原点です。科学の場合は、科学に必要な言葉を覚えればよいのです。ただし、近道はありません。言葉だって一〇年以上かかります。知識の網の目を作るにはそれだけの勉強が必要です。無から有は生じません。生命は自然に発生しません。パスツールが証明した通りです。知識だって同じです。^⑫自然には生じません。網の目を作り上げる人と、作り上げない人がいる、というだけの差です。ただそれだけのことです。

たった一点の壺をみせられてこれは歴史に残る名作だ、と教えられても、^⑬藪から棒を突き出されたようなもので、目を白黒させられるだけです。相手がそう言っているから、そういうものかと思うだけです。価値のつけようも、判断のしようもありません。ほかにも知っている壺があったり、好きな壺があったり、嫌いな壺があったり、自分も作ったことがあって、形を作るのがどういふことか、色ひとつ出すのがどういふことか、についてある程度の知識がないと、見当がつきません。網に引っかけようがないのです。ここをうまく利用されて、ただ同然の壺を何百万円もの値段で買わされた、というような事件が続いたことがあります。関連する知識の網の目がないと、良いも悪いも、相手の言葉が正しいのか、間違っているのか、判断のしようがないのです。あっさりだまされてしまいます。

何事であつても、わかるためには、それ相応の知識が要ります。知識の網の目を作らなければなりません。

(山鳥 重『『わかる』とはどういふことか—認識の脳科学』より)

問一 空欄A、B、Cに入る語句としてふさわしいものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ そして ウ たとえば エ 何故なら オ もし カ でも キ やはり

問二 傍線部①とはどういうことか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 意味がわからないようにしてあります。

イ 意味がわからなくなっています。

ウ 意味がわかるようにはなりません。

エ 意味がわかっているわけではありません。

問三 傍線部②とはどういうことか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア たくさんの知識を集めると、基本的なものの大切さがわかるようになるということ。

イ 当たり前のことをわかりやすくするために知識を集めるようになっていくということ。

ウ たくさんの知識をどんなに寄せ集めても、文字の集合体にしかないということ。

エ 基礎的な知識を積み重ねていくことによって物事を理解できるようになるということ。

問四 傍線部③とはどういうことか、同じことを言い換えている言葉を文中から六字で抜き出しなさい。

問五 傍線部④と同じ趣旨の一文を三十字程度で抜き出し、その最初と最後の五字を書きなさい。(句読点は一字とする)

問六 傍線部⑤とはどういうことか、具体的に簡潔に答えなさい。

問七 空欄⑥には次のどの文章が入ると思うか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 網に引つかかったものは大きなものだけだ

イ 悪いことをすると、いつか必ず露見する

ウ 絶対にわからないようにしてほしい

エ 悪いことをしたところで見つかることはない

問八 傍線部⑦とはどういうことか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 知識の網の目ができると、何がわかっていて何がわからないことなのかはつきりするということ。

イ 知識の網の目ができると、わかっていることが鮮明になって理解の深さが増していくということ。

ウ 知識の網の目ができると、何もわからないということが良く理解できて真実により近づくということ。

エ 知識の網の目ができると、どんなことがわかってきたかを他人に説明できるようになるということ。

問九 傍線部⑧、⑩の文中での意味としてふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

⑧ 皆目

ア 喜んで イ みんなで ウ しばらく エ まったく

⑩ 見当

ア 予想 イ 意気込み ウ 理解 エ 連絡

問十 傍線部⑨とはどういうことか、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 知っている記号だから、わからないことはほとんどないということ。

イ 知っている記号であっても、知識がないことについては全くわからないということ。

ウ 知っている記号だからこそ、知識から類推するとわかるようになるということ。

エ 知っている記号にしては、わからないことがとても多いということ。

問十一 傍線部⑪とは例えば何を指しているか、文中から漢字二字で答えなさい。

問十二 傍線部⑫と同じことを言っている部分を文中から十字以内で抜き出しなさい。(句読点は含まない)

問十三 傍線部⑬と同じような意味のことわざは何か、最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 瓢箪から駒 イ 泣き面に蜂 ウ 二階から目薬 エ 寝耳に水

問十四 四人の生徒がこの文章について話し合いをしています。この文章の内容と合致している生徒は誰ですか、記号で答えなさい。

生徒A あまり意識したことはありませんが、小さいころに苦勞して覚えたことのいくつかは今に生きていくこともあるような気がします。でも、ずいぶん時間をかけて頑張って覚えたのに全く意味をなさないことのほうが多くて、何だかとても損をした気分がします。

生徒B そんなことはないですよ。何かを理解するということは何年もかかっているいろいろな知識を積み重ねていくことで成り立つのだから、無駄になるなんてことはありません。毎日毎日世界が広がっていくように理解も深くなっていくのだと思います。

生徒C そうでしょうか？ きちんと集中して理解しようと思えば年月の積み重ねなんて全く関係ないような気がします。それよりわかるうという気合のようなものがきつと必要なだと筆者は言っているのです。わかるわからないの違いはあまりないのかもしれないかもしれません。

生徒D 確かにそうですね。私もわかるうとする気持ちがあれば何とか理解できるように思います。特に記憶はインパクトのあるものから蓄積していくものだと思いますし、実際に私の経験から言っても知識が積み重なってゆくという実感が得られると思います。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。文章は一部読みやすいように改変しています。

これも今は昔、ある僧、^①人のもとへ行きけり。酒などすすめけるに、氷魚^{ひお}はじめて出^いできたりければ、あるじ、めづらしく思ひて、^②もてなしけり。あるじ、用^aの事ありて、内へ入て、又、出^いでたりけるに、この氷魚の、このほかにすくなく成^{なり}たりければ、あるじ^③いかにと思へども、^④いふべきやうもなかりければ、物がたりしるたりける程に、この僧^bの鼻^びより氷魚^この一^{ひとつ}、ふと出^いでたりければ、あるじ、^⑤あやしうおぼえて、「その御鼻^{ごび}より氷魚^cの出^いたるは、いかなる事にか」といひければ、^⑥とりもあへず、「このごろ^dの氷魚は目鼻^{めび}より降り候^{そつう}なるぞ」といひたりければ、人みな、^⑦「は」とわらひけり。

〔『宇治拾遺物語』 第七十九段〕

(注) 氷魚…氷のように無色半透明の鮎^{あゆ}の稚魚^{ちぎよ}。古来より珍味とされていた魚。

問一 傍線部①「人」とあるが、同じ意味を示している別の言葉を、本文中から探し答えなさい。

問二 傍線部②「もてなしけり」の本文中の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 調理した イ お世話した ウ 盛り上がった エ ごちそうした

問三 傍線部 a b c d 「の」の中で、一つだけ他のものと文法の意味が違うものがある。その記号を答えなさい。

問四 傍線部③「いかにと思へども」とあるが、なぜそのように思ったのか。理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア あるじが部屋に戻つてくると、思いのほか氷魚が少なくなっていたから。
- イ 僧が部屋に入ると、あるじが氷魚の料理の準備を始めていたから。
- ウ 召使が、氷魚の調理について質問があると急にあるじを外から呼んだから。
- エ 僧であるのに、魚や酒を好んで食べるのをあるじは不審に思ったから。

問五 傍線部④「いふべきやう」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書いて答えなさい。

問六 傍線部⑤「あやしうおぼえて」とあるが、それはなぜか。理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 僧の話が長くなって、あるじは辛く感じたから。
- イ 僧の鼻から氷魚が出ており、あるじは不思議に思ったから。
- ウ 僧が氷魚の捕まえ方を知っているので、おかしいと思ったから。
- エ 僧の鼻が太くはれあがり、心配になったから。

問七 傍線部⑥「とりもあへず」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 即座に
- イ 慌てもせずに
- ウ 何としてでも
- エ 手っ取り早く

問八 傍線部⑦「『は』とわらひけり」とあるがなぜか。理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 僧が、この頃顔つきが氷魚に似てきて困っていると真剣に悩んでいたため。

イ 僧が、氷魚を食べる時は目と鼻を魚に近づけるようにするのが作法と教えたため。

ウ 僧が、最近の氷魚は空からではなく鼻から降るのだと説明したため。

エ 僧が、氷魚の良しあしは、鼻をよく利かせて判断するようにと助言したため。

問九 この物語は『宇治拾遺物語』に収められている。宇治拾遺物語のジャンルは何か。次から選び、記号で答えなさい。

ア 随筆 イ 説話 ウ 日記 エ 歴史物語

三 次の文章を読んで後の問に答えなさい。

現代、正月などにかかるた遊びのひとつとして楽しめることの多い百人一首は、(①)時代、(②)が選定し原型を作ったといわれている。老若男女を問わず、百人の作者の歌を各一首ずつ集めた歌集である。その中には(③)の一人としても有名な在原業平が詠んだ和歌も収められている。

「ちはやぶる神代も聞かず竜田川 からくれなゐに水くくるとは」

(訳) 神々の時代にも聞いたことがない。竜田川が流れゆく葉によって紅色に水をしぼり染めにするとは。

この歌は、百人一首の中で最も多く詠まれた(④)の季節の歌である。枕詞である(⑤)が、歌の印象を強めているが、枕詞は直接口語訳をしないことも特徴である。

問一 空欄に入る適切な語を①②③④は最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。⑤は適切な語を答えなさい。

- | | | | | | | | |
|----|---------|---|-------|---|------|---|-----|
| ①ア | 奈良 | イ | 平安 | ウ | 鎌倉 | エ | 室町 |
| ②ア | 藤原定家 | イ | 紀貫之 | ウ | 小野小町 | エ | 紫式部 |
| ③ア | 三大随筆の作者 | イ | 梨壺の五人 | ウ | 六歌仙 | エ | 八大集 |
| ④ア | 春 | イ | 夏 | ウ | 秋 | エ | 冬 |
- ⑤ 和歌から枕詞を抜き出して答えなさい。

問二 以下は四人の生徒が百人一首について述べあっている場面で、明らかに間違った内容を述べている生徒が一人います。間違っている生徒の記号を答えなさい。

(生徒の会話)

生徒A この当時の貴族たちは、人を好きになっても、簡単に顔を合わせることができず、まずは和歌を送ったと聞いたことがあるよ。恋愛に和歌はつきものだね。百人一首に恋の歌がとて多いいのはそのためだろうなあ。

生徒B 老若男女が百人一首の作者として選ばれたというけれど、そうはいつでも、皇族や貴族、武士や僧など、一定の知識階級の人が歌を詠んでいるね。身分によって生活が大きく違う時代だからね。

生徒C 和歌を詠む時に、男の人が女の人のふりをして詠んだり、年をとった人が若い人のふりをしたりと自分の立場を変えて詠むこともあったそうだよ。立場を隠すことで驚かせようとしていたんだね。

生徒D 電話もメールもない時代に、和歌は相手に様々な情報を伝えるための非常に重要な連絡手段だったのでしよう。三十一文字だけで伝えきるのとはとても難しいけれど、面白いだろうなあ。

四 次の文章の傍線部の①～⑤の語の品詞を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。同じ記号を使っても構いません。

① ある日の暮方の事で、ある。一人の下人が、羅生門の下で雨やみを待っていた。④ 広い門の下には、この男のほか⑤に誰もいない。

(芥川龍之介『羅生門』)

| | | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|------|---|----|---|-----|
| ア | 動詞 | イ | 形容詞 | ウ | 形容動詞 | エ | 名詞 | オ | 連体詞 |
| カ | 副詞 | キ | 感動詞 | ク | 接続詞 | ケ | 助詞 | コ | 助動詞 |

五 次の傍線部の漢字の読み方を答えなさい。

- ① 最後の大会で有終の美を飾る。
- ② 夏の自由研究は化石の発掘に挑むつもりだ。
- ③ お風呂場は湯気がこもっていた。
- ④ 現場では緊迫した空気が流れた。
- ⑤ 優勝に匹敵する喜びを分かち合った。

六 次の傍線部のカタカナを漢字に直し答えなさい。

- ① 駅前にケンケツ車が来ており協力した。
- ② 苦手科目を一所ケンメイに勉強する。
- ③ 体育の授業でアクリヨクを測る。
- ④ 病の進行をソシする薬を開発する。
- ⑤ セイジャクな図書館で勉強する。

